OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ごあいさつ
Author(s)	川勝, 傳
Citation	癌と人. 1978, 6, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24143
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ご あ い さ つ

理事長　川　勝　　傳*

皆さまには益々ご清祥のこととおよろこび申しあげます。

平素は，財団法人大阪癌研究会に対しまして格段のご協力をたまわり厚くお礼申しあげます。

さて，昭和53年３月，財団法人大阪癌研究会理事長に就任いたしました。つきましては，皆さまの大阪癌研究会に対するあたたかいご理解とお力添えによりまして，その責を完ういたして参る所存でございます。

ガンによる国民の死亡は少しも衰えず，毎年約14万人もの人々が倒れておられます。働き盛りの30才から65才の成人層では死因の第１位を占め，家庭的にはもとより，社会的にも，その損失はまことに大きく，ガン征圧はいまや国民の悲願であると申さねばなりません。

早期発見，早期治療が唯一のガン予防手段である現在，国も，この対策の強化をはかっているのでありますがいまだ不十分であります。もとより，自らの健康は自らが守るというのが基本原則でありましようが，国のガン撲滅の施設に呼応し，民間活動も一段と充実して，決意を新たにガン征圧に邁進しなければならないと存じます。

これからは，人類が経験したことがない高令化社会となります。そうした環境での健康に関しましては，健康自体に対する設計，管理がつづけられなければならないと思います。現在のような治療中心の医学だけではなく，組織的な予防医学とリハビリテーション医学へと指向されねばならないと思うのであります。

高血圧，動脈硬化，ガンなどの老人病といっても進行しないうちに発見するように，早期診断システムが確立されれば手がうてるはずであります。すなわち，もっと積極的な人体のメインテナンスを常から心がける必要があるのではないでしようか。

財団法人大阪癌研究会はガンに関する学術研究の奨励助成と検診活動を通じて，その責を果したいと存じます。

従来通り，乳癌，胃癌，直腸癌などの集団検診を行なうと共に，来年度からは，さらに事業の拡大徹底をはかり成人病全般へと手をひろげて参りたいと考えております。

長寿社会を維持していくためには，医者が何人いても足りませんので，国民一人一人が医療従事者になった気持で，自らの健康管理に注意され，積極的に検診を受けるようにしていただきたいものと念じております。かゝる意味合から，財団法人大阪癌研究会が少しでも皆さまのお役に立つならば何よりの喜びであります。

財団法人大阪癌研究会のため，今後ともかわらざるご支援を賜りますようお願い申しあげます。

---

*南海電気鉄道株式会社代表取締役社長